

吹田ラグビースクール指導の考え方について

指導委員長 村田

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、各大会や交流試合の中止をはじめ、練習期間の自粛、加えて日本ラグビー協会のガイドラインに基づいた練習プログラムやコンディション作りを行うなど、これまでのスクール活動とは大きく異なる1年となりました。このような状況の中、各指導員におかれましては、様々な状況の中、ガイドラインに基づく創意工夫に満ち溢れた練習を実施していただき、ありがとうございました。また、保護者の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルス感染防止対策にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止を最大限取り入れつつ、子ども達の成長に向けて指導員・保護者一体となり、子ども達の目線に立つスクール活動を行いたいと考えます。

【吹田RS指導の考え方の根っこ（不変）】

テーマ：安全なプレー = 正しいプレー = 強いプレー

指導員3大ミッション（全学年統一）

- 安全にプレーさせるために、正しいプレー・ルールを理解して指導する
- 子ども1人ひとりに目を向け、こどもの成長に合わせて指導する
- 指導員自身の成長が、こどもの成長に大きく影響することを理解して指導する

【2021年度主な取り組み】

○1年間の目標設定

新型コロナウイルスの影響があり、まだ今シーズンの予定が立たない中ではありますが、1年間の目標を話しあい、目標達成に向けた計画を設定しましょう。

○1人ひとりにあった指導

練習機会について子どもによって大きな違いが出ています。指導員のラグビー感を基本とした、一律的に指導も時には必要ですが、状況を考慮し、これまで以上に子ども1人ひとりに目を向けて、その子がどうすれば成長できるかを考えて、焦らず指導に臨みましょう。

○安全特化メニューの継続

吹田RSの根っこである安全なプレーに、全指導員がこだわりを持ち指導に臨みましょう。

安全において求めるプレー	実践のためのポイント
◎体の芯で当たる <ul style="list-style-type: none"> ・頭を下げない ・顔が逃げない ・姿勢が真っすぐ 	◇頭を下げないためには <ul style="list-style-type: none"> ⇒相手を見る ⇒相手に足を近づける（リードフット） ⇒肩ではなく胸を当てる（胸と同じ足を踏み込む） ◇顔が逃げないためには <ul style="list-style-type: none"> ⇒相手を見る ⇒自分の耳を相手の体に密着させる ◇姿勢を真っすぐにするには <ul style="list-style-type: none"> ⇒足をしっかり（真っすぐ）踏み込む ⇒踏み込んだ足と同じ胸を当てる
◎ケガをしない倒れ方 <ul style="list-style-type: none"> ・頭を打たない ・手をつかない 	◇頭を打たないためには <ul style="list-style-type: none"> ⇒倒れるときにおへそを見る⇒体を横に向ける ◇手をつかないためには <ul style="list-style-type: none"> ⇒お尻や体の側面から倒れる

○制限事項について

ローヘッドや飛び込みタックルによる腕・肩等の負傷を考慮し、**腰より下にタックルする練習は高学年から**とします。理由として子どもは体幹と四肢の筋力（特に下肢）がないことから、膝を曲げて強い姿勢を作ることが困難であるためです。

<こどもを成長させるための取組みイメージ>

